

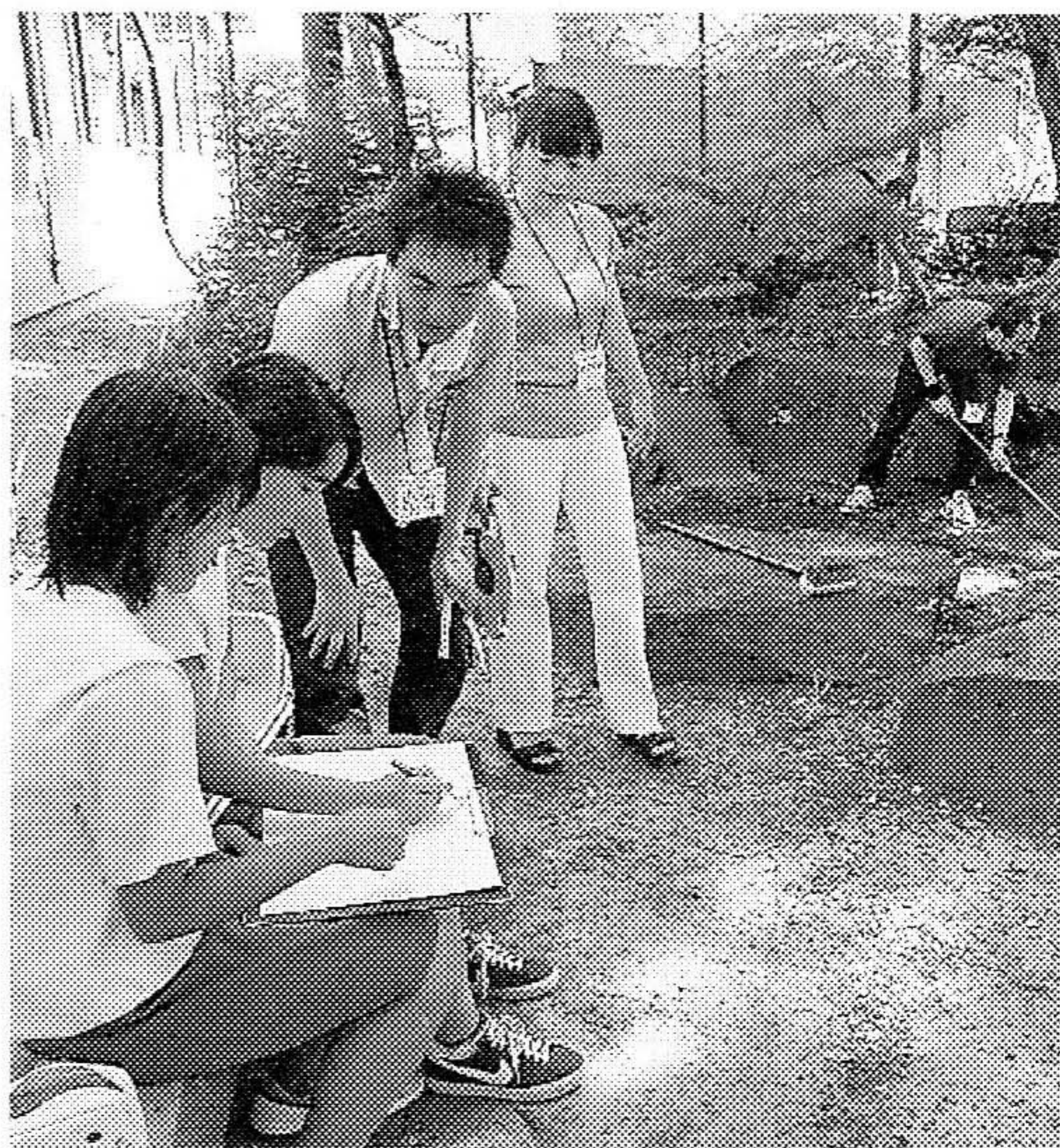
# 「学校を美術館に」試み3年目

長野市立 桜ヶ岡中学校

## 生徒が制作学芸員も体験

今月20日の昼下がり。長野市立桜ヶ岡中で、ユニークな美術の授業があった。

題して「さくらびアートプロジェクト2010」桜ヶ岡中学校を美術館にしよう。3年生の総合学習で月1回、半年かけて、生徒が美術作品を企画・制作する。秋に一般公開し、「キッズ学芸員」として観客に解説もする。プロの美術家やデザイナー、大学生がボランティアで協力しているのも特徴だ。この日、生徒と大人たち約



生徒たちは、協力者の大人と一緒に作品の計画を練る＝長野市

## 大人も参画「伝える心」育つ

70人で教室は満員状態。

「仕事や勉強で忙しい方たちが来てくれました。しっかり作り始めて」と、担当の中平千尋先生(43)。一般の授業では使いそうにない、ブルーシートや緩衝材の「プチプチ」など資材が配られ、13のチームごとに作業に入る。共通テーマは「ありえない学校」だ。暗室に奇妙な空間を作る、デザインしたTシャツでファッションショーをする、などそれぞれのアイデアを練っている。

女子5人のチームは、校内

の小庭園に「不思議の国のアリス」の世界を再現しようと構想中。協力者は、市内の建築士や編集者の集団「ボンクラ」の人たちだ。

まずはデッキブラシをかついで現場へ行き、干上がった池の大掃除。木や庭石の場所をひとつひとつ巻き尺で測り、「地味な作業だね」「頑張らなきゃ」と言いつつ、見取り図にかき込んだ。

「カフェを作って、みんなが楽しめる不思議な空間にしたい」とリーダーの浦原美穂さん(15)。ボンクラのメンバーで1級建築士の宮本圭さん(39)は「中学生の頭にあるイメージを、どう具体化するか。体を動かしながら探る感じですよ」。

生徒は部活や塾に忙しく、世の中との接点が少ない。でも、社会とつながれば様々なことを成し遂げる力を秘めている、と中平先生はいう。

「大人と一緒にレベルの高いものを作ること自信が生まれ、『伝えたい』気持ちが強くなる。本番では立派に学芸員を務めますよ」

(佐藤美千代)

### メモ

さくらびアートプロジェクト「中学校を美術館にしよう」を合言葉に、美術教諭の中平千尋さんが前任校で始めた試みを、桜ヶ岡中でも実施して3年目。生徒らの力作は10月24日の午前9時～午後4時、一般に無料で公開する予定。

学びの

木林

